

料金別納郵便



高島聡平 陶展 —備前より—

令和6年10月16日(水)~21日(月) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時(最終日21日は午後5時まで)

作家在廊日：10月19日(土)~21日(月)

陶歴 平成 3 年 北海道釧路市に生まれる
平成 26 年 道都大学(現 星槎道都大学) デザイン学科 卒業 伊勢崎 淳に師事
平成 28 年 岡山県美術展覧会 入選(平成30年、令和元年)、奨励賞(平成29年)
平成 29 年 第34回 田部美術館「茶の湯の造形展」入選(令和2、3、4年)
平成 30 年 第5回 陶美展 奨励賞、日本伝統工芸展 中国支部展 入選
令和 元年 第12回 現代茶陶展 入選(令和2、4、5、6年)、現在形の陶芸 萩大賞展V佳作
令和 2 年 日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国 展 奨励賞
令和 4 年 日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国 展受賞記念 個展(柿傳ギャラリー)
現在、岡山県 瀬戸内市 牛窓町長浜にて制作

残暑厳しき葉月の一、新進気鋭の備前焼の陶工、高島聡平さんに逢うため、瀬戸内市に向かいました。岡山空港からレンタカーで約一時間、山深い人里離れた場所に彼の工房はありました。出迎えてくれた人懐っこい笑顔に、長旅のけだるさも癒されます。

高島さんは、備前焼の人間国宝である伊勢崎淳氏の門を叩き、独立後、「現代陶芸奨励賞 中国・四国」展の「茶陶部門」で、はれて奨励賞を受賞されました。その栄誉を讃え、令和4年に弊廊で人生初個展と相成ったのですが、風格ある焼き味の作品が人気を博し、また丁寧な接客振りに愛陶家の皆様からも喝采を頂きました。

一基のロクロと製作中の作品がところ狭しと並ぶ小さな工房では、色んな話に花が咲きました。穴窯と灯油窯を駆使した焼成へのこだわり、最新作への挑戦、工房に現れる鹿と猪、そして嫁取り…。まだ33歳と若いのに、強い信念を持つ前向きな作陶姿勢に私は強く共感を抱きました。本展について「最高の作品を出品できる様、がんばります!」とおっしゃって頂き、感無量であり、小さな工房には高島さんの意欲が満ち満ちていて、再訪したくなる居心地の良い所でした。

さて、本展では、茶陶を中心に、酒器(1)やうつわなど約150点を出品致します。裏面の茶碗は、今年の「現代茶陶展」の入選作品で、美しい景色の茶味ある一盃でした。皆様のご清覧をお待ち申し上げておりますので、若き陶工に忌憚のないご批評を頂ければ幸甚です。 店主 安田尚史

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com

公式Instagram



